

城南ドルフィンの「なかよしクラス」



城南ドルフィン 川村 総代

城南ドルフィンは今年で30年になりました。城南保健生協が母体となり父母が運営委員会をしています。現在4歳から大人まで誰でも入れるサークルとして毎週火・木・金の3日間水泳を通して健康づくりを行っています。

ゆたかの家の最近のとりくみ



ゆたか支部 古口 総代

「なかよしクラス」というのは知的障害を持つ人たちのクラスです。現在7人がこのクラスの仲間です。このクラスで、中学3年の息子がお世話になっています。このクラスと出会うまで5年くらい経ちます。重度の知的障害を持つ自閉症の息子です。言葉が話すことができないため、自分の思いを伝えられず、時々パニック状態になったり、自分を傷つけてしまう自傷行為をしてしまうことがあります。周囲に迷惑をかけてしまうので、スイミング教室に入れるとは思ってもみませんでした。そんな中ドルフィンは温かく迎えてくれ、大変な子どもでも分け隔てなく接してくれました。

息子にとってプールの活動は体力づくりはもちろん、社会参加の場でもあり、気持ちをイメージできる場になっています。東日本大震災の影響で、しばらくプールが使えなくなりましたが、言葉の遅い息子が水着を持ってきてプールに行きたいとアピールしていました。そんな姿を見ていると、ドルフィンを楽しみにしていることがよく分りました。なかなか楽しみを見つけれない息子にとって、ドルフィンのプールは大切なものになっています。障害があってもなくても、当たり前のように接してくれるコーチには感謝の気持ちでいっぱいです。なかなか障害児を受け入れてくれる場が少ないですが、これからは「なかよしクラス」の存続をよろしく願います。

また竹こまの会は、地域の児童センターで、竹踏み体操をする高齢者と囲碁をする孫くらの世代の子どもたちがお茶を飲んで交流をするという活動を月2回くらいやっています。

池上の高齢者 介護を考える会



中央池上支部 伊藤 総代

今回の東日本大震災で南相馬中から避難されて来た方が、しばらくゆたかの家に来ていました。現在は川崎市の方で仕事をされていますが、当初、思うような仕事や住まいが見つからずいました。何とかその人の思いを分かちあてたい、信頼関係を築きたいと思いましたが、時間が足りなかつたり、難しかったりしました。

この世の中一人では生きていけないので、人間関係と社会生活、絆を大切に作るコミュニケーションを原点に考えています。

新しくできた 羽田2丁目体操班



羽田支部 戸張 総代

羽田というところはとても人情があつていい人たちが集まっています。ですから、1人でも多くの方に足腰をしっかりとってもらって、元気でいつまでも長生きしてもらいたいということに活動をすすめています。

毎月1回、アクティブルームという場所をお借りして、ループ体操を中心に行っています。現在10人程度でやっています。

たところ条件次第では家を提供してもいいという申し出があったり、条例に縛られないサロン風の場の提供の申し出もありました。いろいろと話をすすめた中で、何かあつた時の責任の所在をどうするのかなど具体化への道は遠いと感じました。

皆、明日はわが身として深刻な思いで受けとめています。これからさまざまなところと連携して、高齢者も安心して暮らせる豊かなまちづくりをめざして、この運動をもっと大きく強くしていけたらと話合っています。

『お元気でか訪問』 毎年1回くむ



大森稲谷支部 安斎 常務理事

私は城南保健生協の助け合いまちづくり委員会の委員もやっています。先日委員会の時に高齢の方で「何か心配なことはありませんか?」と聞いたところ、その方は一人暮らしなのですが、「もしも何かあつたときには困るなあ」とおっしゃっていました。

城南3法人で今年からとりくむことになった『お元気でか訪問』ではそうした人のために「救急・医療情報キット」をお渡ししていきます。今回は参加が非常に多く、当初予定していた地域を大幅に拡大して行いました。計7回の訪問で、参加は139人・訪問したお宅は384軒・対話したお宅は387軒・キットを渡した数は198本でした。私は6月8日に参加しました

が、実際に65歳以上で一人暮らしの方に、その場で情報シートと一緒に記入してキットを渡してきました。また、ご夫婦でも心配だという方にはお2人分差し上げてきました。

向こう3軒両隣という言葉がありすが、みなさんもそうした方に日頃から挨拶できるというのが基本ではないかと思えます。私の近所で「最近あの人がいないけどどうしたのかねえ」と家族が話していました。後日、その方を見かけたので、そのことを家族に伝えました。こういった隣近所への目というのが大事なのだと思います。

週10日行くころ 「ゆんす」



馬込山王支部 前澤 常務理事

2010年9月から週5日の相談体制になりました。これによつて相談の中身も深まり、相談件数も増えてきています。相談は、10時~12時までの2時間でだいたい3件くらいです。大田区の方が圧倒的に多く、男女比率は同じです。年齢は60~70代が多いです。そのうち半数は生協組合員ですが、この相談を通じて新規の加入も増えていきます。相談内容は、医療、生活住まいの相談、最近では遺産相続もあります。

この間の特徴は、大森中診療所の受付で医療内容の話をしていの中で、こちらに回ってきたり、医師から診察中の話の中で、その内容なら「よろず相談」へというのや、職員からの紹介もあります。このように認知度も高まってきました。

3・11以降、相談内容に変化があります。温マツサージをやっているのだけど、震災後東京の中でもボランティアで力を貸したいというものでした。この方の相談は、京浜診療所のデイケアで活かされています。また、被災者の医療費の問題や被災地にボランティアに行きたいがどうすればいいか? などです。

今後の課題は、城南3法人の連携の強化、とくに無料低額診療事業の広報活動や情報の共有化、事例検討会なども行っていきたいと考えています。

私たち5人の相談員だけでなく、その背景には弁護士や生活と健康を守る会、労働組合などとのつながりの中で相談を行っているの、いっそうこうした方々との連携が必要となってきます。この相談活動が大森中診療所だけでなく、地域全体に広がっていくことを願っています。

東日本大震災 支援について



大森西訪問看護ST 下條 総代

城南3法人の震災支援は、医師7人・看護師4人・介護福祉士1人・事務14人・医学生1人・職員の子ども1人・歯科技士1人・生協組合員(看護師)2

人の計32人が現地に行き、医療活動や支援に当たりました。義援金は304万6332円がみなさまのご協力で集まっています。

私の故郷は陸前高田市です。東京に来てこんなに陸前高田という言葉聞いたことがありません。私は訪問看護師で地震の時は患者さまのところにいました。その時テレビに映し出されたのがたぶん陸前高田だったと思うのですが、津波の第1波でそれが60%だったのでホッと、利用者さまの安全を確認しながら事務所に戻りました。仕事を終え、家に帰り、はじめて自分の故郷があんな状況になっていることを確認しました。陸前高田に住む姉や甥や姪のことを気にしながら過しました。姉と連絡がつかない状況でしたが、東京で私たちが責任を持っている人たちのために自分の仕事をきちんとしなければならぬと思いました。

私たちの仕事は、それぞれの利用者さまのことを考えながらなのですが、今回のことで医療者として災害に対するマニュアルがないということに気づかされました。これから、そうした時にどう対処するのかというマニュアルづくりをしていこうとみんなで話し合っています。

グループホーム虹の 家しかぜの状況



しかぜ所長 橋本 理事

しかぜは開設から2年半が経過しました。入居者さんは、入居したときよりずっと若返っ